「三田義正――人材育成と果断の事業家」刊行

平成四年一二月石桜振興会の名で「三田義正―人材育成と果断の事業家」が出版された。

松見得明石桜同窓会長は

「母校岩手中学校がいつ誰によって建てられたのか。また設立者はどんな人だったのか。初代理事長三田義正翁の往時の印象を記憶している人は少なくなった。何んとしても今のうちに母校岩中を形成し来たった学風の始まりと、その緒をなした三田義正翁の事績を記録にとどめ、後世に伝えねば――」

と、まず「三田義正を語る会」を石桜振興会のもとに発足させた。

会合を重ねるに伴い伝記編纂の展望がひらけ、岩手の先人、偉人の発掘に取り組んでいる盛岡タイムス社の社会学芸部長藤井茂氏の執筆によって完成した。盛岡タイムス紙上への連載を経て、一書として刊行することになった。

西在家寛校長はかねて母校創立者の志を伝え、その建学の精神を生徒に植えつけるには単に入学式の機会だけではこと足りないと考えており、自身が担当する正課授業に、真向からとり入れるに恰好の著として、在校生と、新入学生のためにこれを採用した。

同窓生にも広くPRし、入手購読した同窓生も多い。平成五年二月二六日盛岡市志家町サンセール盛岡で出版祝賀会がもたれ、佐々木初朗盛岡市教育長、三田義三三田商店会長はじめ多数の同窓生、マスコミ関係者等約一五〇名が出席した。

松見得明同窓会長は永年に亘った刊行までの歩みをふり返り、出版の喜びを石桜同窓会報第一八号（平成四年一二月一日号）で次のように記述している。

三田義正翁の伝記刊行を思いたってからすでに五年有余。ようやくその刊行を見るに至った。思えば遠い道程であった。

執筆者の藤井茂氏のご苦労はもとより、資料や談話を寄せて下さった皆様のご協力ご厚

情には感謝の言葉に苦しんで余りある。（中略）

この企画は第一回生として入学した私にとってはかねての念願であり、且つ三田翁生誕一三〇年を期してとの願いもあり、気が気でなかった。

憶うに国公立校には特定の創立者もなければ、従って創立に当たっての建学の精神というものもないのが通例である。私学には必ずそれがある。しかもそれぞれの独自性をもち、自尊の気概さえもっているのが常である。

本校についていうならば、創立者は郷土の偉人三田義正翁であり、その建学の精神は三綱即ち「積慶」「重暉」「養正」である。校歌にはこれを「神と祖国と人道」とうたい、その端的象徴としての石割桜が校章に刻まれている。

私達はその校章をつけ、機会あるごと折りにふれるごとに校歌を歌い、歌いつぎ、石桜精神の発揚に努め自己実現に精進し今日にいたっているのである。

しかしながら創立七〇年に及んでは、校風継承の中に生かされてはいるものの、星霜のなかに埋没し、本然の光輝に浴するに遠き感なきにしもあらずと憂うるのである。

かかる折、翁の伝記の刊行は改めて岩手中・高等学校創立の趣意とその経緯を詳らかにし、建学の精神を顕在ならしめることとなり、ひいてはこの学び舎に学んだことの幸いと誇りを喚起することになるのではないだろうか。